

## CONTENTS

- P1 令和7年 励ます会理事長 新年のご挨拶  
「はげまし」で振り返る2024年の主なトピックス
- P2 警察庁長官・警視總監 年頭のご挨拶／警視庁機動隊対抗レスキュー競技大会
- P3 第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おいた大会～  
Member's Lounge 「正しく怖がるインターネット」小木曽健氏

発行所 一般社団法人  
機動隊員等を励ます会  
〒103-0025 東京都中央区  
日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館  
発行人 中村 真一  
TEL 03(5614)0710  
FAX 03(5614)0719  
http://www.hagemashi.com  
jimukyoku@hagemashi.com

# はげまし

令和7年  
新年号

For the Riot Policemen  
& Members

— No.581 —

明けましておめでとうございます。  
会員の皆様におかれましては、清  
なお気持ちで新しい年明けをお迎えの  
こととお慶び申し上げます。  
昨年3月に当会は創立50年を迎えま  
した。これまでの会員各位ならびに機  
動隊をはじめとする警察関係の皆様  
のご支援、ご協力に対し衷心より感謝申  
し上げます。

## 各地で激甚災害や 重大事案の発生が増加

昨年を振り返りますと年始早々能  
登半島地震と羽田空港衝突事故があ  
り、その後も日向灘  
等の地震、第10号台  
風、山形・秋田豪  
雨、能登半島豪雨な  
ど激甚災害の多い年  
でした。また、衆議  
院選挙や自民党総裁  
選挙、東京都知事選  
挙があり、政治資金  
パーティー収入裏金  
問題が世情を騒がせ  
るなど政治の年でも  
ありました。さらに  
訪日外国人が過去最  
高を記録するととも  
に初詣やゴールデン  
ウィーク、花火大会  
等の人がコロナ禍  
前に戻り、暑く長い  
夏も相まって大変  
厳しい一年でした。そ  
うした中、警察関係  
の皆様には、これら  
の救援救助や警備警  
備の任務を無事完遂  
されました。



一般社団法人  
機動隊員等を励ます会  
理事長 中村真一

## 令和7年 新年のご挨拶

大サイバー事案への対応も急がれます  
が、これらの難題にも的確に対応され  
ることでしょう。

一方で、匿名・流  
動型犯罪グループに  
よる凶悪犯罪が増加  
し、国民の体感治安  
に深刻な影響を及ぼ  
す状況にあり、一刻  
も早い全容解明が望  
まれます。また、重  
動員隊員等を励ます会50周年史」を  
発行しました。また、「創立50周年記  
念激励会」や「小山相談役による記念講  
演」、「理事による座談会」等を開催し  
、当会設立の理念や当時の時代背景など  
に思いをはせながら、今後の50年のあ  
り方を考えてまいりました。そのほか、

「ありがたう機動隊」のポスターやポ  
ストカードを作成し、機動隊員と警察関  
係部署等に配布しました。

また、昨年6月の創立50周年記念激  
励会(本部を皮切りに北海道支部、九  
州支部、中国四国支部でも交流激励会  
が開催され、東北支部は中止を余儀な  
くされたものの、そのほかの支部も1  
〜2月に開催を予定しています。機動  
隊員の皆さんと当会会員が親しく接  
し、直接感謝の思いを伝えることがで  
きる交流激励会は、当会の重要な行事  
の一つです。2月には昨年、能登半島  
地震対応で中止となった全国優秀機動  
隊員研修を6年ぶりに開催することと  
なりました。コロナ禍や能登半島地震  
により長きにわたり中止を余儀なくさ  
れてきた行事が再開できることはこの  
うえない喜びであり、それだけの行事  
や警備支援について一層充実させてい  
きたいと考えています。

機動隊員等の皆様の  
活躍を祈念

今年は大阪・関西万博が開催され、  
国内外から三千万人もの来場が想定さ  
れており、テロ、防災、減災、サイバー  
セキュリティ、感染症等の様々な取り  
組みが必要となります。また、地政学  
的な緊張の高まり、巨大地震のリスク  
や自然災害の激甚化に加え、トクリウ  
事案、サイバー事案など極めて多岐に  
わたる対応が求められます。

こうした厳しい環境においても、機  
動隊員等の皆様には日々の訓練の成果  
を十分に発揮していただき、無事重責  
を果たされと確信しております。ま  
た、今後とも治安維持の最後の砦であ  
るとの誇りと自信をもって職務にまい  
進していただきたいと願っており、私  
共はそうした皆様を、微力ながら末永  
く支援していきたく思っております。

最後になりますが、昨年新たに加  
入された会員各位に感謝を申し上げます  
とともに、全国の機動隊員等ならびに会  
員の皆様にとって、本年がより実り多  
き年になりますことを祈念して新年の  
ご挨拶いたします。

## 「はげまし」で振り返る 2024年の主なトピックス

昨年は元日の能登半島地震に始まり、  
各地で激甚災害が発生した。また、1  
月に警視庁が創立150年を迎えられ、  
当会も3月に創立50年を迎えた。昨  
年の「はげまし」で取り上げた主だっ  
た記事から一年を振り返る。

### 1月 元日に発生した能登半島地震の 救援救助への機動隊員の活動を支援



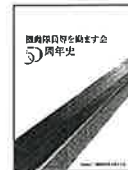
機動隊による能登半島地震救援・捜査活動

### 2月 能登半島への機動隊の救援救助派遣のため 2月以降の各支部激励会・ 全国優秀機動隊員研修中止

### 3月 50周年記念講演開催 (演題「励ます会50年を振り返って」 励ます会相談役 小山巖氏)

### 5月 警視庁機動隊視察式観覧

### 6月 50周年記念激励会開催、第51回定時総会開催、50周年史発行、 沖縄県警察機動隊・国境離島警備隊の活動を支援、警視庁災害警備 総合訓練観覧、福岡県警察総合警備訓練観覧、新潟県警察視察式観覧



50周年史  
表紙

### 8月 広島・長崎平和祈念式典の警備支援

### 9月 能登半島豪雨の救援救助への機動隊員の活動を支援、 警視庁機動隊新隊員合同訓練観覧、北海道警察機動隊フェア参加

### 10月 北海道支部激励会開催、全国警察空手道選手権大会観覧

### 11月 九州支部激励会開催、警視庁機動隊対抗wvレスキュー競技大会観覧、 全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭参列

### 12月 中国四国支部激励会開催

### ← 今月の賛助広告会員 →

芝本産業(株)  
協材砕石(株)  
日鉄エンジニアリング(株)  
三和実業(株)  
山陽特殊製鋼(株)  
日鉄物流(株)  
新ケミカル商事(株)  
富士興業(株)



警察庁長官 露木康浩

## 年頭の ご挨拶

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、平素から、また、大変長きにわたって、機動隊員等に対して深い御理解と温かい御支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、元日に令和6年能登半島地震が発生し、最大震度7を観測しました。この地震により、数多くの建物倒壊や大規模な土砂崩れ、火災等が発生し、多数の方が亡くなりまし

が発表されました。さらには、7月には山形県及び秋田県で、9月には石川県で、それぞれ大雨による被害が発生するなど、自然災害が多く発生した年でありました。

警察では、令和6年能登半島地震や豪雨災害において、一人でも多くの人命を救助するため、震災当初から機動隊等を中心とする広域緊急援助隊を全国から派遣し、要救助者の救助や行方不明者の捜索等の活動に当たりました。

また、「第74回全国植樹祭」(岡

た。また、

8月には、

最大震度6

弱を観測し

た日向灘を

震源とする

地震が発生

し、初の南

海トラフ地

震臨時情報

山県)「第78回国民スポーツ大会」(佐賀県)「第39回国民文化祭」(岐阜県)、「第43回全国豊かな海づくり大会」(大分県)の各行幸啓に際しては、皇室と国民との親和に配慮しつつ、御身辺の安全や歓送迎者の雑踏事故等の防止に努めたほか、10月に行われた第50回衆議院議員総選挙では、全国警察が総力を挙げて要人警護をはじめとする所要の警備を実施しました。

こうした警備事象に従事する全

類発生する豪雨のほか、発生が危惧されている首都直下地震や南海トラフ地震等の様々な災害にも引き続き備えてまいります。

警備の中核を担うこととなる機

## 警察庁機動隊対抗 レスキュー 競技大会

去る11月27日、立川総合警備訓練場にて災害時救助の技術技能を競う競技大会が実施され、当会の伊澤常任理事が見学した。

～ 今月の賛助広告会員 ～

- (株)佐藤ホールディングス
- 新潟スチール(株)
- 日鉄ドラム(株)
- 岡部(株)
- 日鉄建材(株)
- 不動鋼板工業(株)

そ。今後も第四機動隊の団結力を発揮して、いつ発生するか分からない災害に備えて、レスキュー技能の向上に努めていく」とコメントした。

同大会は、「登はん競技」「渡橋競技」「工作資機材操作競技」の3種目をリレー方式で行い、レスキューの正確性や速さを競う。当日は警察庁の10の機動隊から選抜された機動隊員約200人が参加し、総合優勝は昨年に続き第四機動隊、準優勝は第三機動隊、第3位は第五機動隊であった。



渡橋競技



警視總監 緒方禎己

## 新年に 寄せて

各地で大規模な自然災害が発生した一年でありました。

さて、世界に目を転じてみますと、未だ収束が見えないウクライナ情勢や混乱の度を深める中東情勢など、各地で内戦や紛争が多発し、不安定な国際情勢が続いております。

こうした情勢の中にあつて、10月に発生した自民党本部及び官邸における火炎瓶投擲事案では、我々が対峙している脅威の現実と、重要防護対象の警戒警備に当たたる機動隊の使命と責任の重さを改めて強く認識したところであります。警視

庁機動隊は、治安のプロとしての矜持と覚悟を持ち、都民・国民の安全安心を守るため、日々の訓練を通じて、断続的に技量の向上を図り、地震や風水害などの自然災害や各種警備に迅速かつ的確に対応し得る有事即応体制の確立に努めております。



工作資機材操作競技

明けましておめでとうございます。機動隊員等を励ます会会員の皆様におかれましては、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、平素から機動隊員の諸活動に対して深いご理解と温かいご支援を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年は、年初に石川県能登半島で発生した地震に続き、復興途上にある同被災地を襲った9月の記録的な豪雨による災害など、全国

害現場で被災者の救出救助をはじめ各種活動を行ってまいりました。また、佐賀県での国民スポーツ大会や大分県での豊かな海づくり大会に伴う警備警備等では特別派遣部隊として現地で警備に従事したところでもあります。さらに、コロナ禍が収束し、海外からの観光客を含め、街に人流が戻る中、隅田川花火大会をはじめとする毎年恒例のイベント等に伴う雑踏警備や、警護体制が抜本的に強化さ

て、世界に目を転じてみますと、未だ収束が見えないウクライナ情勢や混乱の度を深める中東情勢など、各地で内戦や紛争が多発し、不安定な国際情勢が続いております。

こうした情勢の中にあつて、10月に発生した自民党本部及び官邸における火炎瓶投擲事案では、我々が対峙している脅威の現実と、重要防護対象の警戒警備に当たたる機動隊の使命と責任の重さを改めて強く認識したところであります。警視



登はん競技

# 第43回 全国豊かな海づくり大会

## 「おんせん県おおいた大会」

水産資源の保護や漁業振興を目的とする全国豊かな海づくり大会。1981年の第1回大会以降、各地で開催され、上皇上皇后両陛下が御臨席されてきた。今回の開催地は第1回大会の開催地でもある大分県。機動隊員等が沿道や式典会場周辺の警備にあたった。

今大会のテーマは「つながるバトン 豊かな海を次世代へ」。豊かな海や川を次代へ引き継いでいくため、つくり育てる漁業

に一層取り組むとともに、それらを育む自然環境を守っていく、というもの。天皇皇后両陛下は去る11月10日に大分市のEcoGreenシアターで開かれた式典行事に御臨席になった。

天皇陛下はお言葉で「大会が始まりの地で行われる今回の大会を契機として、全国各地において取り組まれてきた豊かな海づくりの活動に、皆さんの英知と努力を再び結集し、さらに発展させていくことを期待します」と述べられた。

式典後の放流・海上歓迎行事は、別府市の別府港第4埠頭で行われ、両陛下は式典に引き続き御臨席された。漁船による海上パレードの海上歓迎行事を御観覧のあと、特産のマコガレイとマダイの稚魚を御放流された。

警備においては、大分県警察の機動隊員や県外から特別派遣された部隊が、両陛下の行幸啓

先の沿道での交通規制や歓送迎者の対応を行った。また、式典会場周辺では不審物の検索などを徹底し、無事に警備を完了した。



自動車お列と歓送迎者への対応状況



大分空港を御覧になられる両陛下



警戒状況(お泊所周辺)



不審物件等検索(御視察先周辺)



警察犬による検索(大分空港)

## Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 11月の朝食講演会

SNSの普及に伴い、たびたびニュースになるネットの炎上事件。なぜ人はネットで失敗してしまうのか、失敗しないために何に気をつけるべきなのか。今回はネットリテラシー向上のための情報発信を多方面で行い、警察でサイバー犯罪対策技術顧問としても活動する小木曾氏にご講演いただいた。



〈11月21日のゲスト〉

おぎぞ ん  
小木曾 健氏  
国際大学GLOCOM  
客員研究員

### プロフィール

1973年 埼玉県生まれ

経歴

1997年 青山学院大学経済学部卒業

複数のITベンチャー勤務を経て現職。講演、メディア出演、執筆などを通じて、企業ネット炎上の「火消し」から、情報リテラシー、ネットで絶対に失敗しない方法、フェイクニュースへの対策まで幅広く情報発信。全国の企業、官公庁などに向け2000回以上、40万人以上への講演実績あり。メディア出演多数。

著書

「炎上しても大丈夫! 今日から使える企業のSNS危機管理マニュアル」(晶文社、2022年)  
「11歳からの正しく怖がるインターネット」(晶文社、2017年)  
「ネットで勝つ情報リテラシー あの人はずなれないのか」(ちくま新書、2019年)  
「13歳からのネットのルール」(メイツ出版、2020年)  
ほか多数

正しく怖がるインターネット

### 1. SNSは駅の伝言板

私は「ネットでは絶対に失敗しない方法」をお伝えするための講演を全国で行っています。受講年齢の下限は小学5年生ですが、5年生以上であれば大学生でも会社員でもPTAでも同じ内容です。小5と大人でなぜ同じ内容なのかとよく聞かれますが、例えばもし5年生が車を運転するとしたら、知るべき内容は大人と同じはずですよ。道具を使うとはそういうことです。ネットもSNSもスマホも道具ですから、「小5なら教えるのはここまで」ということはありません。さらにネットは子どもを子ども扱いしてくれません。大人と子どもが同じことを知らなければいけない分野なのです。

実はSNSは新しい道具でもなんでもありません。昔、鉄道の駅の改札近くに必ず黒板の伝言板がありました。SNSの定義は、人と人との結びつき、その結びつきを強めること。駅の伝言板と機能的には全く一緒です。黒板の伝言板に何を貼ってはいけないのかというのを考えれば、SNSに何を載せたらダメなのか、私たちはすぐに理解できるはず。現在のSNS

### 2. 必ず身元がバレる炎上

ネットに問題発言や法律に反する行為、動画、写真などを載せると、大勢からのパッシングが晒されます。ネット炎上です。謝罪が必要なインタネット上の騒動がネット炎上だとも言えます。

炎上はじまって身元がバレるまでの時間は3〜4時間、もっと早いと数十分です。なぜそれほど短い時間で身元がバレるのか。理由の一つは、炎上が始まる直前のタイミングで、そこにはすでに100万人以上がワラワラと集まっており、その中に「私この人、知っているよ」という人が必ず一人はいるからです。

なぜそんなことが断言できるかというと、実はまったく関係のない二人の間であつても、あいだに5人挟むだけで99.9%の確率で辿れちゃうからです。これは「6次の隔たり」と呼ばれ、いろいろな実験で証明されています。みなさんが憧れているタレント、アイドル、海外のスポーツ選手で

あつても、あいだに5人でつながります。この実験はインターネット出現以前におこなわれたもので、今なら3〜4人挟めば繋がるでしょう。このことを考えると、狭い日本で100万人も集めれば、そこに自分を知っている人が誰もいないことのほうが不自然なのです。

個人情報載せていなければバレない、というのが幻想です。個人情報を書きいかなかったとしても、SNSで何気ない一言や風景写真といった些細なものを、集まった100万人が分析し、一つの情報に変えてしまいます。SNSに情報を載せる際の、リスクに対する想像力が重要になるでしょう。

(P4つづく)

### → 今月の賛助広告会員 →

大阪製鐵(株)

(株)カノークス

日鉄物産(株)

五十鈴(株)

三和運輸機工(株)

(株)ワークス

(P3からつづく)

## 3. SNSは泥棒にとってのカタログ

この「ネットに対する想像力」がなければ、われわれ大人でもあつさりネットで失敗します。例えば、「今から海外旅行です」と空港で撮った写真をSNSに載せれば、犯罪者がその投稿を見て、自宅が窃盗被害に遭う可能性もありますよね。実際にそういった事件も起きています。

そもそもSNSに載せるのは「自慢したいもの」「自慢の車、自慢のバッグ、自慢のアクセサリ」。泥棒からすれば盗み出したいもののカタログみたいなものでしょう。また「今日から海外旅行」今夜は素敵なレストランで「飯」といった不在情報も自慢だったりします。泥棒からすれば、SNSは盗み出したいものとの不在情報セットになったパッケージであり、じゃあこの家に行こうと目をつけるのがいくらでもできるのです。しかも、スカイラインのR32型を盗み出ればR32と検索すれば所有者が出てくるわけですから、現代のSNSは泥棒のカタログとも言えるでしょう。

これらを考えると、SNSに何をどう載せるかは非常に気を遣うことになるのですが、正直、言い出せばキリがありません。ネット以外の日々の暮らしにもリスクはたくさんあります。ほどよく適切に気をつけるために私が良くやっているのは、時間と場所をずらすこと。「今ここにいるよ」ではなく、「昨日あそこに行ったよ」とタイミングをずらして投稿する。実際、「海外に行きます」とSNSに書いたくらいで泥棒に入られる可能性は低いですが、それを知ったうえでどこまで気を付けるかを決める。自分でリスクの順位付けをするのが重要だと思っています。

## 4. 「限定公開」なら大丈夫?

このような話をすると、こん

な反論をされることがあります。「マズい投稿をする時にはちゃんと設定を変えて、友達限定にするので大丈夫。アカウントは鍵付きだから拡散することはない」

残念ですが、限定公開に意味はありません。私はいろいろな炎上を調べていますが、たいていスタートは限定公開です。友達限定に設定する手間をかけてまでわざわざネットに載せたものはずですが、誰かに見せたかった友達はやっぱり誰かに受け取った友達はやっぱり誰かに見せたりします。しかし限定公開だからこれ以上は拡散させられない。その時に人間はどうするか

といえば、ごく自然にスクリーンショットで画像にして「あなただけに教える」と他の誰かに送ります。こうして一瞬で広がっていきます。人間の「保存したい」「誰かに伝えたい」という気持ちはコントロール不可能です。限定公開にしたものほど拡散するのです。

それでも、「騒ぎになってもすぐに消す。すぐ消せるよう準備をしているから大丈夫」と反論されることもあります。しかし残念ながら、すぐに消しても意味はありません。

ある中学1年生が、今までいろいろな動画をネットに載せたけど騒ぎになったことは一度もないから大丈夫だろうと、3人でいじめをする動画をあげました。するとこの動画が一瞬で59万回再生され、10分後には炎上が始まりました。

実はネットの炎上は、炎上をスタートさせるために必要な人数が揃えば、その瞬間に1分後でも1年後でも炎上が始まります。その人数が何人かという、二人です。一人は問題になる投稿を載せた本人、もう一人は、それを偶然見つけて炎上を起こせるとひらめいた人です。その投稿は放っておけばやがて消されてしまいます。だから、それを見つけた人は消されないよう保存、コピーしてもっと騒ぎ

が起きやすい場所に放り込みます。これだけで炎上します。3人目はいりません。だからネットの炎上は「1、2、100万」と数えるのです。

## 5. ネットの失敗の恐ろしさ

中学生のいじめの動画は、映り込んだジャージのデザインで学校が特定され、学年が特定され、その学年の名簿と、動画の中で名前を呼んでいる音声で突き合わせられ、50分後には一人目が特定されました。残りの二人もすぐに特定されました。家族の名前や職場、その電話番号、家の住所、写真まで。家にいたずらの寿司、ピザ、ネット通販が次々に宅配されます。家の塀に張り紙で誹謗中傷、電話はなりつばなしです。3家族とも引越しました。その引越先は3家族分、今もネット上に番地まで載っています。引越すたびに書き換わります。炎上は一度始まれば相手を灰にするまで止まらないのです。

ただ、炎上の本当の恐ろしさは、炎上した本人のその後の人生です。いじめ動画に映っていた3人が反省し、心を入れ替えて勉強も運動も頑張ったところ、数年後に私立高校の推薦で合格しました。しかし晴れて推薦をもらえた当日、取り消されました。推薦を出したのが炎上を起こした生徒だと知らせる1本の電話が入ったからです。高校は真実かどうかを確認し、まだ間に合うタイミングだったので合格を取り消しました。公立では試験の結果以外で選抜してはいけぬルールがありますが、私立ではこれをしてもいいのです。

実は、こうした合格取り消しは、全ての都道府県で起きています。さらに入試だけではありません。別の高校に行つて卒業し、社会に出る時がやってきますが、仕事探しは壮絶です。会社はネットで騒ぎを起こした人を絶対に雇いたくないからです。私は、ネット炎上の一覧表

を作つて、間違つて雇わないようにしている企業の採用担当者も知っています。そして苦労して仕事を見つけたあと、そのうち結婚したいと思う相手と出会います。しかし、相手の両親に挨拶に行つても、過去の炎上が原因で結婚話は消えました。

いじめの動画の3人は、これを背負って生きていかなければならないのです。助ける方法はありません。とは言え、炎上には賞味期限があります。短くて2ヶ月、頑張つて3ヶ月です。これはデータでもわかっていますが、3ヶ月も経てば、世の中の関心がほぼゼロになります。

しかし人間は、進学、就職、結婚といった人生の大事な時だけ、必ず注目され、名前も検索されます。私も人を雇う時は必ず一回、その人のフルネームをGoogle検索します。過去に一度だけ名前検索で採用を止めたこともあります。

昔ネットで馬鹿騒ぎを起こした人は、もう、その騒ぎを誰も覚えていないのに、人生の大事な時にだけ見つけれ、ほじくり返されて足を引つ張られます。これは解決方法もなければ終わりもありません。これがネットで失敗する本當の恐ろしさです。大人も子どもも、この最悪のパターンを知つてネットを使うべきです。

## 6. 正しく怖がるために

ただ、ネットを必要には怖がりすぎないでください。ネットは道具です。絶対に失敗しない使い方がありません。

シンプルに言えば、日常でやっていいことは、ネットでもやっていいということです。炎上もしません。そして日常でやらないことは、ネットでもやらない。人生が吹き飛んでしまふ可能性があるからです。これをマスターすれば、あと20~30年、どんなSNS、スマホが出てこようが失敗せずにやっていきます。これをわかりやすく伝えるために、例として私がいつもお見せる

のが、玄関の写真です。自宅の玄関を思い浮かべてください。その玄関ドアに貼れるものは、どんなものでもネットに書いてください。

インターネットは全て家の外です。個人同士のやりとりも含めて全て家の外です。しかもインターネットは何かやらせれば注目され、絶対に身元がバレる、そういう場所です。インターネットとは、自分の家の表にベタベタものを貼つている作業なのです。日本には表現の自由という最高の仕組みがあります。世界に誇れるレベルです。ただネット上の自由など、実際は玄関ドア程度なのです。

なお、知らない人も混じっているような、お酒が入る懇親会、立食パーティーなどで話せる内容が、だいたいその方にとっての玄関ドアに近いでしょう。自分の主張を通したいけれど、付き合っている関係でこは言わないほうがいい、そうしたギリギリのバランスが取れるのが、少しお酒が入り、知らない人がいる場所です。ネットリテラシーの第一歩としてこの考え方を持っていたら、企業としての展開に役立っていただけではないと思います。

## 講演後質疑応答

Q 小学校1年生くらいからスマートフォンを持つて

ような状況で、子どもにインターネットの怖さをどう教えられるのでしょうか。

A 今のところ5年生より下の年齢の興味の大半が、動画やゲームです。その場合は端末を壊さない使い方、「ご飯を食べながら使わない」といったルールの話になります。5年生くらいから、人との繋がりがや外に情報を発信することに興味を持ち始める傾向が見られます。かつ、家とよそさま、玄関の内と外という概念

がばんやりと理解できるのが、これも5年生くらいです。そのため講演は5年生を線引きにしています。スマホの適齢期をよく聞かれますが、玄関ドアの概念を理解できるのであれば私は適齢期だと思います。理解できないければ、中学生だろうがスマホは渡せない。包丁も2~3歳から使う子もいれば、中学生、高校まで触らない子もいます。この見極めは親しきません。

Q 炎上を防ぐため、投稿前に使える炎上チェックアプリのような機能は開発されているのでしょうか。

A そういったものは、おそらく作ることができないと思っています。というのは、ネットと現実は一緒であつて、ネットの中だけのモラルはありません。生きるために必要なモラルを身につけるには、家庭で親が教えていくしかないと思います。これは機械ではどうにもできません。もし炎上しないためのチェックができるとしたら、それは人間のモラルをチェックするものになります。人間性に対する部分です。だから作れないのではないかと思います。

## 編集後記

昨年は、激甚災害、選挙等機動隊にとっても出勤機会が多く、また「トクリュー」による犯罪などにより休養が安が悪化した1年でした。今年は、大阪・関西万博が開催され、平穏な1年であつてほしいと願いつつ、引き続き機動隊員等の皆さんを支援していきたいと思いを新たにしています。(励ます会事務局)

## → 今月の賛助広告会員 →

日本製鉄(株)  
(株)メタルワン  
共英製鋼(株)  
合同製鉄(株)  
太陽サカコー(株)  
日鉄テックスエッジ(株)  
日鉄プロセッシング(株)